

留学先大学：SOAS, University of London留学先での所属学部・研究科：ELAS留学先での在籍身分：Undergraduate留学期間：2013年9月～2014年14月神戸大学での所属学部・研究科：発達科学部学年（出発時）：3本報告書記入日：2014年7月14日**授業について**

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	Literacy	学期毎に異なる	5		10	年間を通じて履修。2時間のタイムライティングが複数回ある。
2	Oracy	学期毎に異なる	5		10	ディスカッションが主。他にプレゼンメソッドなど。
3	Social Sciences	C. Boyle	5		10	政治・経済・開発学の基礎。リーディングが課される。
4	Media	D. King	4		15	メディア学入門。2nd termに受講。リーディングは少なめ。
5	IELTS	S. Read/ R. Kearney	4		8	IELTSの準備コース。1st, 3rd termに受講。毎週課題あり。
6						
7						
8						
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

ELASはUndergraduateとは少し異なるシステムを採用しており、学部・修士・博士入学前の準備コースを提供しています。3学期それぞれ10週間のコースがあり、最終週に試験があります。クラスサイズは10名前後で、成績は1 term毎につきま

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃：200000・住居費：（月額）100000 ×（留学月数）10ヶ月 = 1000000・食費：（月額）30000 ×（留学月数）10ヶ月 = 300000・保険料：110000・その他：350000合計：2000000（留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。（800字～）

海外渡航は高校時代の韓国への修学旅行のみ、さらに英語はこれまで学校で勉強したなかで最も苦手という状況のなかで、イギリスへの留学を決めました。

英語レベル不足から正規のUndergraduateへの留学は認められず、SOAS内にあるELAS(English Language and Academic Studies)の所属となりました。ここでは学部から博士課程入学前までのさまざまな学生が学んでおり、その英語レベルも学問的バックグラウンドも極めて多様でした。受講したなかの授業のひとつ”Social Sciences”では、政治・経済・開発の基礎を学ぶと同時に、学生の出身地からくる考え方の違いを目の前で感じることができたように感じます。とくに、旧統治国・被統治国や戦勝国・戦敗国の視点の違いは日本で学んできた内容以上に異なっているように思いました。また、授業で使ったリーディングの1冊が日本で既に読んだことのある本だったことがあり、授業前後に講師とその本について意見を交換する機会がありました。そこでは、文化の差によって受け取る内容の違いと同時に、和訳された文章が必ずしも的確ではないことがあるということも感じました。しかし、これらの違いを感じる一方で、学問の基礎となる部分は日本とイギリスに大きな違いは見られないようにも感じました。

勉強に対する姿勢の差は、渡英前からさまざまな書籍や報告書で情報を得ていました。例えば、日本の大学生は勉強をしない、イギリスの大学生は非常に真摯に勉強しているなど、実際にその通りである部分もありました。イギリスの学生は図書館に何時間もこもり、リーディングを読み、エッセイを仕上げるということは事実でした。また、真剣さや危機感のようなものも日本以上であるように感じました。しかし、こちらは基本的に授業にかける時間数やコマ数が日本に比べて少なく、その分を宿題や自習に費やしているのかもしれないとも思います。とくにイギリスでは基本的に教養科目というものがなく、入学から卒業まで専門科目を学ぶことが一般的なようです。そのため、自分の専門外のことは全くわからないという学生も少なくなかったように感じました。

生活・学問の基礎となる英語に関しては、最後まで苦勞の連続でした。英語力が不足していることは渡英前から明らかでしたが、現地に降り立てばある程度なんとかなるだろうという甘い考えも少なからずあったことも事実でした。しかし、現地でどれほどうまく英語を運用できるかは、日本でどれだけ英語を勉強してきたかと基本的に比例しているように感じました。留学経験のある友人や先輩方はよく最初の3ヶ月で劇的に英語力が変わると指摘されていましたが、私は3ヶ月経っても全く変化を感じることはできませんでした。結局、3週間のクリスマス休暇のほとんど全てを日本から持参した英文法と単語帳に費やし、さらに別の書籍も日本から輸入し、それらを使って勉強していました。この努力の成果かはわかりませんが、春を過ぎて夏を迎える頃には、若干英語がうまくなっているような感覚をもつことができました。しかし、留学前に目標としていた英語能力にはまだまだ達しておらず、帰国してからも英語学習を続けなければならないと感じています。

最後に金銭的な部分にも触れたいと思います。個人的に(またおそらく多くの人にとって)最も大きな問題は金銭面でした。SOASはロンドンのなかでも中心部に位置しており、今回お世話になった大学寮でも10ヶ月で最終的に100万円以上必要となりました。立地によって、観光地や日本食へのアクセスが容易になるという利点は享受できましたが、家賃負担だけでこの金額は小さくありませんでした。物価も日本に比べ高く、例えば食費は日本で一人暮らしをしていた頃の1.5から2倍程度かかっていました。また、渡英直後は150円を少し超えた程度の為替も帰国直前には175円を超えていました。しかし、私が今回利用することのできたJASSO以外にも、さまざまな団体が海外留学を希望する大学生に奨学金を提供しており、金銭的負担はある程度和らげることができます(ゼロというわけにはいきませんが)。留学には大小様々な問題がありますが、それ以上に得られるものがあるように思います。報告書を読んでいるみなさんが悩んでおられるようでしたら、色々な人を頼って是非前向きに留学を検討して頂きたいと思います。私が無事に留学を終えられたのも、様々な支えによるものでした。ありがとうございました。